

# 教対プリント 線の上に英語だけ3回練習→( )埋め。 中1 L6 P88 1/2

so ソウ：とっても

many メニイ：たくさんの ● マニー

restaurant レストラン (s~ツ)：レストラン ● レスタウラント hungry ハングリー：空腹な ● フングリー

which フィッチ：どっち、どの → 選択

recommend レコメンド：勧める

中1 L6 (P88)

Bob : So ( ) Chinese ( ) !  
とってもたくさん、中華料理屋さんがありますね。

Kenta : I'm so ( ) !  
私はとってもお腹が空いています。

英語は、「あります」をよく省略します。「犬～！」って、日本語もですね…。というように、名詞がドンと来ていたら、「～があります」の省略かなと思ってください。ちなみに There is ゼアリーズ+単数名詞～、または There are ゼアラー+複数名詞～で表します。

( )( ) you ( ), Mei ?  
どのレストランを あなたはお勧めしますか メイ

eat イート：食べる ● エアト

ate エイト：食べた ● アテ

at+場所：～で

Why ホワイ：なぜ → 理由

Do you～? : あなたは～しますか。

that ザット：あれは、それは

that+名詞：あの～、その～

this ザット：これは

this+名詞：この～

中1 L6 (P88)

Mei : Let's ( ) ( ) restaurant.  
食べましょう あのレストランで

Bob : ( ) ( ) recommend ( ) restaurant ?  
なぜ あなたは勧めるのですか あのレストランを

「の」を脳に馴染ませよう。「～の」+名詞はセットになる。

What sport do you like? (何のスポーツが好きですか。) とか、Whose book is this? (これは、誰の本ですか。) などです。Look at that man. (の人を見て。) のように、that+名詞 (あの名詞) と this+名詞 (この名詞) も大切です。

英文の下に、日本語訳を書きなさい (スラッシュごとに) 。

音読する (おウチで) 秒数 ↓

**Bob: So many Chinese restaurants !**

1回目

秒

**Kenta: I'm so hungry!**

2回目

秒

**Which restaurant / do you recommend, Mei ?**

3回目

秒

**Mei: Let's eat / at that restaurant.**

秒

**Bob: Why / do you recommend / that restaurant ?**

カッコ

# 教対プリント 線の上に英語だけ3回練習→( )埋め。 中1 L6 P88 2/2

because ビコーズ：なぜなら

their ゼア：彼らの

special スペシャル：特別な

it イット：それ → 代名詞。今回は their lunch special のこと。❶「これ、あれ」と訳す時もある。訳さないほうが多い。

come カム：来る ❶主語が食事なので、「提供されます」と訳すと自然な文になる。だが、これを分かった上で「来る」と訳す。

with ウィズ：一緒に

中1 L6 (P88)

Mei : (なぜなら)(彼らの) lunch special is very good.  
それは(ランチは)来ます一緒にスプリングロールとデザートとも a spring roll and a dessert, too.

返事は、質問文の「主語+動詞」で答え始める。ただし主語は代名詞にする。(例) Who is that boy? He is Taro. ←書く

in+言語：～で

What's ワッツ：What is の短縮形

there ゼア：そこに、そこへ、そこで

中1 L6 (P88)

Kenta : What's a spring roll?  
スプリングロールって何ですか。

←質問文に対する「返事」は、質問文中の「主語+動詞」で答え始めます。これは、英語のルールです。よってメイは、これから「スプリングロールとは、～です。」と答え始めますので…

Mei : (↑「主語+動詞」↑)(春巻き) Harumaki (日本語で) Japanese.

Kenta : Oh, I love harumaki!  
おお、私は春巻きが大好きです。

英文を読んでいて代名詞を見つけたら、2回目なので、積極的には日本語にしなくて良い。  
Who is that boy? (あの少年は誰ですか) He is Taro. (太郎ですよ。) のように。

Kenta : Let's go (行きましょう) !  
そこへ

英文の主語も、2回目は省略されがちですが、主語以外の2回目は(代名詞は)、省略しないで書くほうが良い。「ぼくはサッカーが好きで、よくテレビで見ます。」を英文にすると…  
I like soccer and often watch it on TV.のように、主語のIは省略してもitは書く。

英文の下に、日本語訳を書きなさい(スラッシュごとに)。

音読する(おウチで) 秒数↓

Mei: Because / their lunch special is very good.  itは【そして】とか【で】と訳す。

1回目

秒

It comes / with / a spring roll and a dessert, too.

2回目

秒

Kenta: What's a spring roll?

質問文の「主語+動詞」で答え始めるのが英語です。なのに無い。  
質問文の主語は a spring roll で、動詞は is ですので(ちなみに主語は代名詞にしますので、a spring roll は itになります)、本当はメイは、「It is Harumaki in Japanese.」と言うべきでした。※この It is が、上の穴埋め問題の正解です。

Mei: Harumaki / in Japanese. ←

上でお話した通り、主語の代名詞は、日本語も英語も省略されがちです。さらに友人間では、動詞も一緒に省略されがちです。よってメイは、主語の it も動詞の is も省略して、「Harumaki....」と言ったわけです。

(例) Do you like TV? Yes. も  
What do you want to eat? Sushi. も同様です。

3回目

秒

Kenta: Oh, I love harumaki!

Let's go there!

●カッコ  
つけて  
読む。

# 教対プリント 線の上に英語だけ3回練習→( )埋め。 中1 L6 P90 1/2

full フル：いっぱいの（満ちた状態を表す形容詞） ate エイト：食べた a lot：たくさん（1つ扱いの名詞）

am と is→was ウズ

are→were ワー

delicious デリシャス：美味しい

中1 L6 (P90)

**Bob : I'm full.** ( ) ( ) a lot!  
ぼくはお腹いっぱいです。 私たちは食べました たくさん

**My fried noodles ( ) so delicious.**  
私の焼きそばは でした とても美味しい (→とても美味しいかったです)

liked ライクトゥ：好きでした enjoyed エンジョイドウ：楽しみました

mine マイン：私のもの

know ノウ：知っている

also オールソウ：～もまた（一般動詞の前に置く）

someone サムワン：誰か left レフト：出発した、残した (leave リーブ：出発する、残す、～のままにしておく)

中1 L6 (P90)

**Aya : I ( ) the spring roll, too.** ←このtheって何?  
私は好きでした 春巻きが (も)

2回目なのに、代名詞にしないことがあります。その場合、the book のように the をつけます。何でもかんでも2回目を代名詞にすると、話が分かりづらくなりますよね。

**Kenta : I ( ) ( ), too.**  
俺は (も) 楽しみました 自分のものを

文中に also (～も) が出てきたら、いったん無視して訳し進めましょう。最後まで読むことで、文脈から、どこに「も」を入れたら良いか分かります。

**Aya : I ( ). You also ( ) Mei's spring roll.**  
私は知っています。 あなたは 食べました メイの春巻きを (も)

**Kenta : Hey, ( ) ( ) a dessert.**  
ハイ 誰かが 残したよ デザートを

※翻訳：「誰かがデザートを残しているよ。」（現在形で言う）

英文の下に、日本語訳を書きなさい（スラッシュごとに）。

音読する（おウチで）秒数↓

**Bob: I'm full.**

**We ate a lot !**

1回目

\_\_\_\_\_秒

**My fried noodles were so delicious.**

日本語の「も」を言うタイミング。

英語の too と also は、ともに「も」という意味です。特に too は、文末に来る所以、紙なら読み返しができますが、会話中に出てきたら焦りますよね。「うわ、今さら登場？」なんて…。

**Aya: I liked / the spring roll, too.**

そこで解決法は…、「無視をする」です。無視して最後まで文を読んで（聞いて）、どこかのタイミングで分かった時に、「ここ！」と思えばOKです。

2回目

\_\_\_\_\_秒

**Kenta: I enjoyed / mine, too.**

3回目

\_\_\_\_\_秒

**Aya: I know. You also ate / Mei's spring roll.**

●カッコ  
つけて  
読む。

**Kenta: Hey, someone left / a dessert.**

ラストの1文：someone left まで読んで（または聞いて）、「誰かが出発した」なのか「誰かが残した」なのか、まだ分かりませんよね。こういう多義語、日本語にもたくさんありますよね。「昨日、ハシが気になって～」とか…。そんな時は【両方とも心で思う】が正解です。で、読み進めるうちに、どっちの left か分かったら、「ああそっちは」と思えば良いのです。そしてこの能力が、長文を速く読むコツにつながります。訓練あるのみ！です。

# 教対プリント 線の上に英語だけ3回練習→( )埋め。中1 L6 P90 2/2

Whose フーズ+名詞：誰の名詞

Is that～？：あれは（それは）～ですか。

mine マイン：私のもの

yours ユアーズ：あなたのもの

my マイ：私の

your ユア：あなたの

中1 L6 (P90)

Kenta : ( ) dessert is ( ) ?  
誰のデザートですか それは

Mei : It's not ( ). Is it ( ), Bob ?  
私のではありません。あなたのですか。ボブ？

このマイのセリフは、どちらの文も、主語はitで、ケンタの文のthatの代名詞です。そして何度もくり返して恐縮ですが、itは原則訳さないほうが、自然な日本語になりますので、今回訳しました。

myかmineか：my bookのように、後ろに名詞が来る時は、myです。「これは私のです。」はThis is mine.です。  
後ろに名詞が来ていないからですね。つまり、日本語で判断するのではなくて、名詞が続くかで判断しましょう。

not ~ any more：もうこれ以上～ない eat イート：食べる ※エアトとか、エアテと言いながら練習しよう。

Who + 動詞：誰が～、誰か 疑問詞は主語になると「が」と訳す。時々「か」と訳す（例）誰かいりますか～？ ←書く

want ウォント (sツ)：ほしい

want to：したい

do：代動詞 今回はwantの2回目として

中1 L6 (P90)

Bob : Yes, it's my almond jelly. I ( ) eat ( )( ).  
はい、僕のゼリーです。僕はもうこれ以上、食べることができません。

Mei : Who ( ) it ?  
誰か欲しいですか。

Kenta : I do ! Thanks.  
オレが欲しいです。ありがとう。

2回目ですので（代名詞のitのこと）、マイのセリフ中のitを訳しませんでした。ケンタの文にいたっては、3回目ですので、書きさえしていません。本当はI want it.（オレがそれを欲しいです。）です。

代動詞

ケンタのI do!のdoは、want（ほしい）の代わりです。代名詞ならぬ代動詞と言います。

Do you like soccer ?

Yes, I do. ←このdoも。

「誰かスパイですか。Who is a spy?」「誰かそれを知っていますか。Who knows that?」のように、主語になった疑問詞（今回はWho）は、「～が」または「～か」と訳します。

英文の下に、日本語訳を書きなさい（スラッシュごとに）。

音読する（おウチで）秒数↓

Kenta: Whose dessert / is that ?

itは、原則、訳さなくてOKです。

1回目

\_\_\_\_\_秒

Mei: It's not mine.

Is it yours, Bob ?

・何が（何か）～ですか。

・誰が（誰か）～しますか。

のように、疑問詞はよく主語になります。訳は「～が」「～か」です。ちなみに、主語になった疑問詞は、三人称単数扱いになりますので、heやsheと同じく、現在ならば、be動詞はisで、一般動詞にはsまたはesをつけます。

(例) Who is here ?

(誰かいませんか～。)

(例) Who makes dinner ?

(誰が夕食を作りますか。)

2回目

\_\_\_\_\_秒

Bob: Yes, it's my almond jelly.

I can't eat any more.

そして例のように、「主語+動詞～」の形になります。つまり、肯定定と同じ語順になります。

3回目

\_\_\_\_\_秒

Mei: Who wants it ?

Kenta: I do !

Thanks.

●カッコ  
つけて  
読む。

# 教対プリント 線の上に英語だけ3回練習→( )埋め。 中1 L6 P92 1/2

look at :見る

all オール:すべて

all the boys :男子全員 = all of the boys とも言う

in イン:「～の中」を表す

that+名詞:あの名詞

Those are ゾウズ アー:あれらはです

中1 L6 (P92)

Kenta : Look at ( 見て

)( sweets ( すべてのスイーツを

)( store ! あのお店にある

●お店の中にあるから in です。

Mei : ( あれらはです

) all Chinese sweets. すべて 中国のスイーツ

all (the) + 複数名詞:すべての～。が基本だが、形容詞が入り、長くなる句では、the は省略される。

What are ~ ? :何ですか

those+名詞:あれらの名詞

yellow イエロー:黄色

it 前の名詞そのもの (複数 they : ゼイ)

one 前と同じ名詞だが、別のもの (複数 ones : ワンズ)

They are ゼイアー:それらはです (複数名詞の2回目) favorite フェイバリット:お気に入りの

中1 L6 (P92)

Kenta : ( ) are ( ) yellow ( )? 何ですか あれらの 黄色い スイーツは

it と one について

両方とも「それ」と訳す代名詞です。違いを例文で…

Mei : ( それらはです ) egg tarts. エッグタルト

(例) Taro has a book. (太郎は本を持っている。) に  
対して、「ぼくも同じ本を持っているよ。」と言う時は、  
it と one のどちらでしょうか。

My mom's ( ). 私の母のお気に入り (のスイーツ) です。

I have ( ), too. (ぼくもそれを持っています。)

最後の文は、They are my mom's favorite. (それらは私の  
母のお気に入りです。) の省略形です。答えは one です。it にしてしまうと、太郎と共有している  
ことになります。ちなみに one の複数形は ones です。

英文の下に、日本語訳を書きなさい (スラッシュごとに) 。

音読する (おウチで) 秒数 ↓

Kenta: Look at / all the sweets / in that store !

1回目

Mei: Those are / all / Chinese sweets.

一秒

Kenta: What are / those yellow ones ?

2回目

Mei: They are / egg tarts.

My mom's favorite.

一秒

この those は主語かな?と思つたとします。: What are those? (あれらはなんですか。) の those は主語ですが、Who are those boys? (あの少年たちは誰ですか。) の those は主語の一部です (those boys で主語です)。そんな those ですが、those の後に名詞が続いている場合は、those dogs (あの犬たち) のように、「あれらの、あの」と訳します。というように、英語の【型】を、理屈で覚えてほしいのです。さらに…

What is this? (これは何ですか。) の主語は this です。という何気ない文からも「ということは、be 動詞の疑問文は、be 動詞の次が主語になるんだな」と思つてほしいのです。すると、少々複雑になった Who are those boys ?も、those boys が主語だと断言できるようになります。というように、法則は、自分で作るのです。そのためにも中学生の間は、できるだけたくさんのが身に付けてください。それらがすべて、【法則を導く土台】となるからです。

3回目

一秒

●カッコ  
つけて  
読む。

# 教対プリント 線の上に英語だけ3回練習→( )埋め。中1 L6 P92 2/2

get: 手に入る

some サム: いくつか、いくらか、何とか (漠然とした数、量を表す) ←書く

for: ~のために  前置詞と言い、後に代名詞が続く場合、3番目 (目的格) になる。 ←書く

necessary ネセサリー: 必要な

bake ベイク: 焼く

 中1 L6 (P92)Kenta: Get ( ) for ( )?  
お母さんのために、いくつか手に入れましょう。Kenta: Well, that's not ( ). My dad ( ) delicious egg tarts.  
えっと、それは必要ありません。私の父が焼くからです 美味しいエッグタルトを

もとは、Get some egg tarts for her.で、くり返しになるので (theme)  
になることさえ飛び越えて) egg tarts が省略されたのが本文です。

Do you like soccer? Yes, I do. も、2歩手前は、Yes, I like it.  
で、さらに like が do になって、最終的に it が省略された形です。

上記の「焼くからです」を見てください。理由を表す接続詞 because が無いにも関わらず、勝手に「から」が補われてますね。理由はシンプルで、そのほうが、文脈的に自然だからです。このように、【単語の意味だけを拾った訳で理解】するよりも、【文脈に合わせて訳をいじる】ようにすると、内容がつかみやすいです。これが英語を得意にするコツです。※話は変わって、以下はテストです。

単数		主格	所有格	目的格	
		は、が	の	を、に	~のもの
1人称	私				
2人称	あなた				
3人称	彼				
	彼女				
	それ				
	亜紀				
複数		主格	所有格	目的格	
		は、が	の	を、に	~のもの
1人称	私たち				
2人称	あなたたち				
3人称	彼ら				
	彼女ら				
	それら				

単数		主格	所有格	目的格	
		は、が	の	を、に	~のもの
1人称	私	アイ I	マイ my	ミイ me	マイン mine
2人称	あなた	ユー you	ユア your	ユー you	ユアーズ yours
3人称	彼	ヒイ he	ヒズ his	ヒム him	ヒズ his
	彼女	シイ she	ハー <sup>1</sup> her	ハー <sup>1</sup> her	ハーズ hers
	それ	イット it	イツツ its	イット it	
	亜紀	Aki	Aki's	Aki	Aki's
複数		主格	所有格	目的格	
		は、が	の	を、に	~のもの
1人称	私たち	ウイ we	アウワ our	アス us	アウワーズ ours
2人称	あなたたち	ユー you	ユア your	ユー you	ユアーズ yours
3人称	彼ら	ゼイ they	ゼア their	ゼム them	ゼアーズ theirs
	彼女ら	ゼイ they	ゼア their	ゼム them	ゼアーズ theirs
	それら	ゼイ they	ゼア their	ゼム them	ゼアーズ theirs

英文の下に、日本語訳を書きなさい (スラッシュごとに)。

音読する (おウチで) 秒数 ↓

Kenta: Get some / for her.

Kenta: Well, that's not necessary.

My dad bakes / delicious egg tarts.

(上記「焼くからです」の補足) 英文とは、「文脈的にずれていないならば、」その中に思いを込めて良い、ということです。  
You sing a sad song just to turn it around. この歌詞の直訳は「あなたたちは歌を歌います。何かを変えるために。」ですが、文脈が分かっていれば、こうとらえることができます。「あなたたが悲しい歌を歌うのは、本気で何かを変えたいからですよね。」に。(急に出てきた it は、意味がない→何か)

1回目

\_\_\_\_\_秒

2回目

\_\_\_\_\_秒

3回目

\_\_\_\_\_秒

● カッコ

someについて: a little (少し)、many (たくさん) 以外の場合、つまり、はっきりしていない (あいまいな) 様子さえも表現しようとする言語、それが英語です。ですので、some をよく使うわけです。一方日本語は、表現しません。たとえば、「昨日何してた?」と聞かれて、「本を読んで過ごしたよ。」と、日本語では答えると思います。あえて「何冊か読んで過ごしたよ」とは言いませんよね。けれど英語は、I read some books.のように、some (何冊か) を使うのです。ということは、日本人は、英文中に出ている some は、不自然じゃなければあえて訳さなくて良い!ということになります。(例) I drink some milk every morning. (私は毎朝、牛乳を飲みます。) で良い、ということです。

# 教対プリント 線の上に英語だけ3回練習→( )埋め。 中1 L6 P93 1/1

in fact イン ファクト：実際に、つまり

be good at ~ing : ~することができる

made メイド：作った

last ラスト：この前の、最後の

night ナイト：夜

Did you 一般動詞～？：あなたは～しましたか。

have : 食べる

中1 L6 (P93)

Kenta : He ( )? 一般動詞の2回目は、代動詞として do, does, did を使います。  
彼が焼くのですか。

Mei : ( )( ), ( ) at ( ).  
実際に 彼は料理をすることが得意です

: He ( ) dinner ( ) .  
彼は 作りました 夕食を 昨夜

Kenta : ( )( )( )( )?  
何を あなたは食べましたか

~, … : カンマは補足を表す。日本語にすると、「～です、～で、～ですが」です。会話では「一拍」おくか、and を使います。

中1 L6 (P93)

Mei : Coconut curry soup, my favorite.  
ココナツカレースープで、私のお気に入りです。

: ( )( ) just great !  
それは でした 本当に美味しい

Kenta : He ( )( ) everyone's favorite. I admire ( ).  
彼は 作ることが みんなのお気に入りを 私は彼を素晴らしいと思います。称赞する  
できるんですね

【名詞, ~】の形で、カンマ以下が、直前の名詞の補足を表します。

(例) That boy, my brother, likes soccer.

(あの少年は、私の弟なのですが、サッカーが好きです。)

左の文はもともと、I had Coconut curry soup, my favorite.

(私はCCSを食べました。私のお気に入りなんです。)という文です。

代名詞の使い方：forなどの前置詞の次は、3番目にする(I my me mineのme)、というお話を前回しましたが、一般動詞の次も3番目にします。I know him. (私は彼を知っています。)のように。主語でI、一般動詞で2とすると、Iと2の次なので3番目と覚えましょう。

英文の下に、日本語訳を書きなさい（スラッシュごとに）。

音読する（おウチで）秒数↓

Kenta: He does ? Does he bake them ? (彼がタルトを焼くのですか。) がフルです。タルトは代名詞(them)にさえなれず落ち、bakeは動詞で落ちずdoesとなり、Does he～?ともならず、抑揚でカバーされた。というわけです。かなりの英語力がつまつた文です。

1回目

\_\_\_\_\_秒

Mei: In fact, he's good at / cooking. He made / dinner / last night.

2回目

\_\_\_\_\_秒

Kenta: What / did you / have ?

just ジャスト(本当に)は、次に来る語句を強調し、greatはgood(良い、美味しい)の強調形です。

3回目

\_\_\_\_\_秒

Mei: Coconut curry soup, / my favorite. It was just great !

Kenta: He can make / everyone's favorite. / I admire / him.

What did you have? (あなたは何を食べましたか。)と聞いてきたケンタに、メイは中1生なので、I had CCS, my favorite.と、完全な文で答えるべきでした。メイが「主語+動詞」を省略したのは、繰り返しからです。つまり新情報ではないからです(言わなくても分かるでしょ?と…). 英文とは、質問文の「主語+動詞」で答え始めるのがルールです。

●カッコ  
つけて  
読む。